

令和5年8月3日
(資料提供)

(事務担当)
所属名：農林総合研究センター 農業試験場
総合研究部 病害虫防除室
直通：257-6903

令和5年度病害虫発生予報第5号について

今後発生が予想される水稲、大豆、果樹、野菜の病害虫の発生量や防除上の注意事項について掲載します。

- 1 予報期間 8月上旬～8月下旬
- 2 予報内容

水稲

紋枯病の発生は**多**と予想される。防除を実施していないほ場では、発病を確認した場合、直ちに防除を実施する。

斑点米カメムシ類の発生は**多**と予想される。高温乾燥時には水田への侵入が促進されるので、防除を徹底し、斑点米の発生防止に努める。

ツマグロヨコバイの発生は**やや多**と予想される。今後の発生状況に留意する。

大豆

ハダニ類の発生は**多**と予想される。抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤は連用しない。

カメムシ類の発生は**多**と予想される。幼莢期から子実肥大期に必ず防除を実施する。

アブラムシ類の発生は**やや多**と予想される。抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤は連用しない。

フタスジヒメハムシの発生は**やや多**と予想される。汚斑粒の発生要因となるため、子実肥大期の防除を徹底する。

果樹

ナシ黒星病の発生は**やや多**と予想される。降雨前後の防除を徹底する。

リンゴ斑点落葉病の発生は**やや多**と予想される。降雨前後の防除を徹底する。

カキ炭疽病の発生は**やや多**と予想される。降雨前後の防除を徹底する。

果樹カメムシ類の発生は**やや多**と予想される。山林に近い園では特に被害が多くなる傾向があるので、園内への侵入に十分注意する。

ハダニ類の発生は**やや多**と予想される。抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤は連用しない。また、発生源となる下草を刈り取った後、防除する。

野菜

軟腐病の発生は**多**と予想される。作業中は作物を傷つけないよう注意するとともに、害虫防除を徹底する。またネギ類は高温時の作業を避け、灌水をしないこと。

疫病の発生は**やや多**と予想される。降雨によって感染が助長されるので防除を徹底する。また、ほ場の排水およびハウス内換気に努める。

スイカつる枯病の発生は**やや多**と予想される。降雨前後の防除を徹底する。また、ほ場の排水に努める。

ネギ黒斑病の発生は**やや多**と予想される。降雨前後の防除を徹底する。

ハダニ類および**アザミウマ類**の発生は**多**と予想される。抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤は連用しない。

ハスモンヨトウの発生は**多**と予想される。若齢期の幼虫の防除を徹底する。

ネギハモグリバエの発生は**やや多**と予想される。抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤は連用しない。

シロイチモジヨトウの発生は**やや多**と予想される。若齢期の幼虫の防除を徹底する。

※病害虫防除の実施に当たっては、最新の農薬使用基準を確認し、遵守する。

6～8月は農薬危害防止運動期間です。